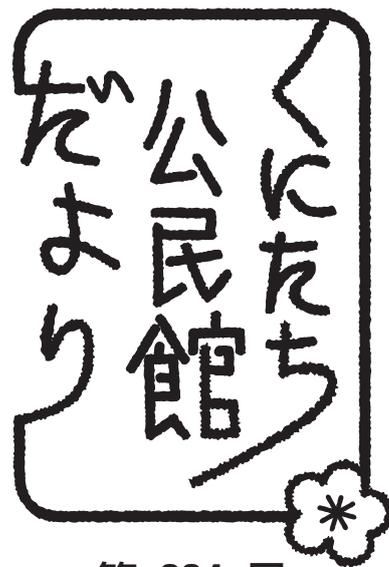


# 「高度経済成長期の日本とくにたち」 講演要旨

講師 寺西 俊一 (一橋大学名誉教授・帝京大学教授、『国立市史』執筆)

くにたちが「町」から「市」になったのは、1967(昭和42)年。2017(平成29)年1月1日をもって、国立市は市制施行50周年を迎えました。

これに先立って開催された公民館・中央図書館・郷土文化館による共同企画の講演をまとめました。(2016年11月23日実施)



第 684 号  
2017年2月5日  
(平成29年)

## ◆国立市史への関わりから

本日は、約50年前のいわゆる高度成長から低成長時代へと日本社会が構造的に大きく変わっていく時代の日本社会と国立についてお話しします。その間の1967年1月1日付で国立が町から市になっていますので、その前後のお話をするようになります。

私は、京都市の経済学部で地方財政や地域開発の問題を勉強しました。その延長で、たとえば四日市のコンビナート開発が深刻な公害をもたらしたことから、公害問題や環境問題にだんだん私の専門が移ってきました。1975年4月から一橋大学の大学院(経済学研究科)に進み、その後1980年度に全国の大学で初めて一橋大学経済学部に「環境経済論」という講座ができ、その専任講師となりました。着任後、84年

発行  
国立市公民館  
〒186-0004  
国立市中1-15-1  
TEL 042-572-5141  
FAX 042-573-0480  
休館日：毎週月曜日

度に学生たちと共同で論文づくりに取り組み、金沢大学との交換セミナーで発表しました。当時は東京湾沿岸のウオーターフロント開発など、都市再開発ブームが起っていたときですね。そういう時期です。都市のあり方をテーマに、一橋大学が立地している元の自治体である国立という都市をみんなで調べて勉強しよう、と「今日の都市環境を考える——国立の事例研究」という共同論文をまとめました。

それがきっかけで、国立市制20周年を記念した『国立市史』(上巻・中巻・下巻)編さん委員会に、日本経済史が専門の中村政則先生から誘いを受けて、近現代を扱った下巻の第5章「都市化で変わる国立」(第1節、第2節、第5節)を執筆させていただきました。第1節は、戦後日本の高度成長期をくぐって人口がどんどん膨れ上が

## ◆谷保村から国立町へ

つていくなかで、国立のまちづくりがどういふふうに移りしてきたのか、そこでどんな問題に直面して、どういふ苦労があったのか、当時の関係者にヒアリングしたり、関係資料をいろいろ読ませていただいて執筆したわけです。

国立の戦後の歩みは、一言で言

えば「住宅都市としての発展」です。農村の谷保を中心とした南部のエリアよりも国立駅周辺の北部のエリアのほうが人口が膨れ上がっていった、谷保が相対的に小さくなり、国立全体が一つの「住宅都市」としての性格を帯びる、そういう発展でした。敗戦直後から1954年ごろ(高度成長の始まる前の戦後復興期)、それから高度成長が始まって以降、この2つの時期に分けて、振り返ってみたいと思います。

1945年8月15日、終戦の詔勅が出されます。いわゆる玉音放送ですね。戦後直後の混乱期から、少しずつ戦後復興に向けて動き出すなかで地方自治法が1947年に公布され、都道府県では、それまでは任命制だった知事を公選制で選ぶ。市町村の自治体でも、首長と議員は全て公選制で選ぶという改革があり、戦後第1回の地方



戦後「都市化」の推移を説明する寺西さん

選挙が同年4月に行われます。

このとき、このあたりはまだ武蔵野の林で、国立の一角だけが新町になっていました。当時の谷保村では、誰も村長に立候補する人がおらず、それで谷保村の農地委員会会長をされていた佐藤康胤さんにみんで頼みに行つて、単独立候補で村長に就任されたようです。村議会議員選挙も同時に行われ、22名が選ばれて、谷保(本村)から18名、国立の新町から4名という構成でした。当時の谷保村の村議会は、谷保地域の人たち中心の議会であったということです。その後問題になるのが、町名問題です。当時の谷保村という、甲州街道の向こう側に限定されたイメージの名称ではなく、国立新町の住民がかなり増えてきたので、両方を合わせた町名にしたほうがいいんじゃないかと、新町側から

町名を変える提案がなされたようです。谷保地域でも、谷保というのは読み方によっては「ヤボ」(野暮)となつて、田舎臭いイメージだという声も、一部の青年層にはあつたそうです。では、「国立」という名前がなぜ出てきたか。これは、本当かどうかよくわからないですが、国分寺と立川の間だから、「一文字ずつ」として「国立」としたらどうか。ただ、「コクリツ」と読みかえられてしまうので、町名としてはいかがなものか、などいろいろ議論があつたようです。1951年にこのために村議会が開かれて、谷保村の人たちも同意した上で「国立」という名前に変える条例案を採択し、4月1日から谷保村が国立町(町制に同時移行)へと変わったわけです。その後、これをきっかけにして、国立新町と谷保地域が拮抗する住民運動や政治対立も起こるようになります。

◆くにたちの文教地区指定

1950年6月に朝鮮戦争が勃発しました。これを機に、アメリカの占領政策が大きく変わつていき、今は昭和記念公園になつて立川の米軍基地から、国立の界限にもアメリカの若い兵隊たちが夜遊びに来る歓楽的な施設ができ

た時期がありました。これを危惧して、当時、東京都で文教地区建築条例(1950年)が制定されたので、文教地区の指定を受け、国立を一橋大学を中心とした文教地区にふさわしい文化と教育と福祉の町にしようと、「国立町浄化運動期成同志会」という組織が立ち上がります。他方、文教地区指定をするといろいろな規制がかかりますので、町の産業・商業の発展がそがれるんじゃないかという声もあり、反対派の議員が中心になつて「国立発展同志会」という組織もつくられて、「浄化運動期成同志会」と激突します。

戦後日本の都市の歴史の中で、1950年代に町民同士が町を二分する議論をし合うという経験をしたのは、恐らく国立だけではないでしょうか。国立には、早くからそういう住民同士のまちづくりに関する多様な意見がオープンに議論された珍しい歴史的経緯があるということですね。

結局、1951年8月に町議会で文教地区指定に関する提案が出され、賛成14票、反対11票で、文教地区指定の結論が出ます。これを受けてすぐに町長が東京都の都市計画審議会に文教地区指定の申請を出し、翌年建設大臣がこれを認可、1952年1月6日、国立

に文教地区が生まれました。ちなみに当時、東京都下で、先ほどの東京都文教地区建築条例に基づいて文教地区指定を受けたのは、大泉学園や東京大学の本郷エリアなどです。いずれも地区指定によって昔ながらのたたずまいがずっと守られて、時代が戻るような景観の町並みが残っていますよね。

その後、国立は「文教都市」という看板を掲げるようになり、その内実を発展させていくために、当時一橋大学の学長だった中山伊知郎先生が会長を引き受け、「国立文教地区協会」ができます。一橋大学の教員や学生も国立のまちづくりにずいぶん関わつてきたわけです。

こうした歴史によって、中央線沿線のどこの駅前も、降りたらすぐにパチンコ店があつたり、飲み屋街があつたりしますが、国立駅前には、大学通りを中心とした独特の景観が維持されてきました。

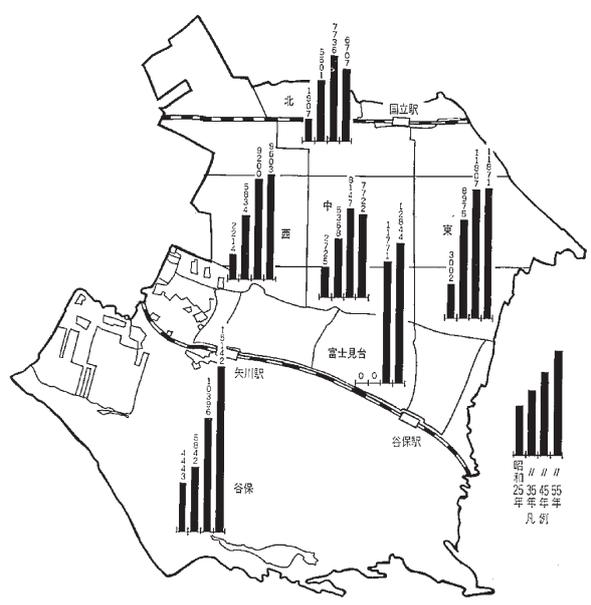
◆日本社会の都市化と高度経済成長

以上が、国立の都市化の第1段階だとしますと、第2段階は1955年以降の高度成長期です。約20年近く、1973年10月のオイルショックまでが戦後日本の高度経済成長期に当たります。

この高度経済成長は、日本全体での急激な都市化の波を伴つていきましたが、その波が、国立にも大きな影響を与えました。この時期には、特に太平洋側の三大都市圏で急激な都市化が進みました。私は石川県の農村に生まれて、高校まで県内の学校へ行き、大学で初めて京都に出て、大学院で一橋大学に進みました。そうして東京にたどり着いた人間ですが、私みたいな経路をたどっている人が高度成長期には多いです。つまり、田舎で育つて田舎で暮らすはずだったのが、大学進学率もだんだんと高くなって、都市部の大

学に進学し、地元へ戻らないでそのまま都市部に住む。多くの人が、太平洋ベルト地帯の都市部で就職し、結婚して子どもをつくる。こうして農村部からたくさん的人口が大都市部に移つていき、日本が全体として都市部と農村部に分かれ、都市部だけが急速に膨らんでいく、そういう都市化が進展してきたわけですね。

ここで、日本の都市化を歴史的に振り返りますと、2つの時期に集中して起こっています。まず、「第1次都市化」の波が1920年代〜1940年代の戦前です。「都市人口比率」で見ますと、いわゆる市部人口は全国人口のうち、1920年は18%でしたが、20年後の1940年には38%になり、倍増しました。それでも都市部の

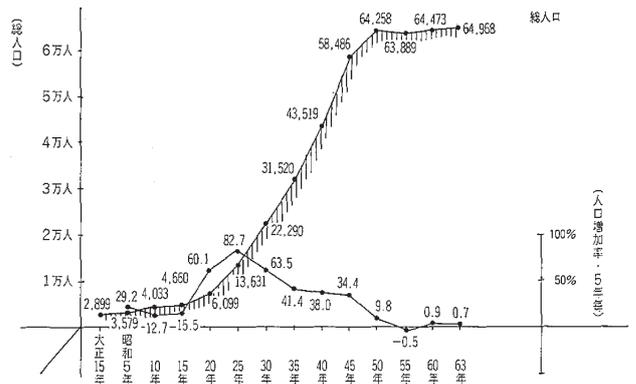


人口は4割弱、まだ6割は農村部に住んでいたのです。このころは、日本全体がまだ農村型社会です。

ところが、第二次世界大戦の時代に入って、多くの男性が戦争に駆り出されていく。日本の歴史の中で悲劇的な時代がありました。それをくぐって戦後になって「第二次都市化」の波が始まり、1955年、高度成長が始まるころには、約半分が都市人口となっていました。さらに1964年の東京オリンピックの翌年には68%が都市人口となり、1970年には7割を超える。さらに時代を経て、2005年になると、ついに86%。今が2016年ですから、さらに進んでいますね。しかも、この間の都市化では、膨れ上がっているところは東京圏だけで、大阪、名古屋は頭打ち。大阪なんかは減っています。だから、三大都市圏というのは昔の話ですね。今は「東京一極大都市圏」という構造になっています。

### ◆国立市における都市化の進展

では、こうした日本全体の動向



国立の総人口と人口増加率の推移 (国立市史・下巻340頁より)

の中で国立はどうだったか。まず、国立で社会的な人口増が起こったのは1927年です。箱根土地という会社の堤康次郎会長が、当時の商科大学(現在の一橋大学)の佐野善作学長と話し合い、関東大震災後、商科大学を郊外に移転して「国立学園町」を開発するということになりました。これによって国立の人口が急増したわけです。その後はまた落ちついて、1938年ころまでは、年平均2%ぐらい人口が少しずつ増えるという、当時の農村部の平均的な姿です。ちなみに東京都全体では、平均3%4%人口が増えているといっています。

から、谷保時代の国立は、東京都全体の平均よりも増え方は緩やかだったということですね。ところが1939年以降、なぜか国立だけが、一気に7%10%、毎年人口が増えていきます。軍需工場がこのあたりに来て、そこで働く人たちが国立に住み始めた影響でしょうか。戦後直後の19451947年にも一気に20%増になっています。引き揚げ者がたくさん入ってきたという背景があるのかもしれない。

その後、1951年4月1日、国立が「国立町」になり、そのとき人口はまだ1万5000人弱。世帯数も3300程度です。それが国立市制になった1967(昭和42)年、つまり東京オリンピックの3年後にはついに5万人を超えます。この決定打となったのは、住宅公団の富士見台団地を誘致したことでした。この入居が始まって、一気に8000人、25000世帯ぐらいが新たに国立市民になり、人口5万人を突破。そして、1967年1月1日に「国立市」が誕生します。

### ◆人口減少社会と

#### これからのまちづくり

市制50周年を迎える今、国立の人口は、7万5000人ぐらいです。高度成長期後も国立の人口はずっと増え続けてきたのですが、ここ数年を見ると横ばいですが、もろ人口が増え続ける時代は終わってしまいました。では、これから国立は、どういう都市づくりを目指すべきなのでしょう。

実は、いま、日本全体が大きな歴史的な岐路に立っています。2011年の3・11の直前、国土交通省が発表した資料では、2004年12月をピークに、今後、日本全体の人口は急速に減っていく時代に切り替わりました。ピーク時で1億3000万人弱だった人口が今世紀半ば(2050年)には1億人を切る。もっとドラスティックに進んでいくと、2100年には5000万人を切ってしまうかもしれない。そのなかで、特に深刻なのは、急速な少子高齢化の進展による人口構成の大きな変化です。すでに、かつて経験したことのない「人口急減」と「超高齢化」の時代に入っているのです。とくに象徴的なのは大都市部での団地です。高度成長期にたくさんつくられた団地に残っている人たちの年齢構成(高齢化率)をみると、65歳以上人口が4割や5割を超える中山間地域を含む農村部以上に「超高齢化」が進行しています。いわゆる孤独死などの悲惨な事態が大都市部の団地で起こってくる可能性もあります。これからの日本社会の危機は、農村部よりも、むしろ大都市部のほうが深刻だといえるかもしれません。

私は、これからの時代には、日本の都市部も農村部も、すべての地域で、それぞれ個性的で豊かな「顔」を持つ、足腰のしっかりした自治体づくりが重要になっていくと思います。ここで「顔」というのは、英語ではFACEです。私の造語ですが、Fは食(Food)、Aは農(Agriculture)、Cは文化(Culture)と福祉(Care)、Eはエネルギー(Energy)と環境(Environment)の頭文字をとったものです。

これからは、道路や建物といったハードを新たに作っていくという時代ではなく、それぞれの地域社会(コミュニティ)のなかで、人々が相互に支え合いながら、個性的で豊かな暮らしを享受していくような自治体づくりが求められています。国立も、独特の自然・歴史・文化を生かし、国立らしい「文教生活自治都市」づくりの歩みをさらに積み上げながら、新しい時代における「文化創造」への発信地の1つとなっていくことを、心から期待したいと思います。

〈図書室のつどい〉

## ようこそ昔話の世界へ

—『グリム童話集200歳—日本昔話との比較—

お 話 小澤 俊夫

(小澤昔ばなし研究所所長・口承文芸学者)

200年以上の時を超えて、今でも各国で読み継がれているドイツの『グリム童話』と、私たちが子どもの頃から慣れ親しんできた『日本昔話』。2つは全く違うもののようにみえて、実はたくさんの類似点があるそうです。小澤さんのお話を伺いながら、先人たちから私たち世代へと伝承されてきた昔話の奥深い世界に触れてみませんか。

〈小澤さんの本〉

『グリム童話集200歳』、『こんにちは、昔話です』、『ろばの子』(小澤昔ばなし研究所)、『昔話の語法』(福音館書店)ほか多数。

と き 3月9日(木) 昼2時~4時

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

\*申し込みは不要です。ご自由においでください。



監督 ジョージ・キューカー

出演 イングリッド・バーグマン、シャルル・ボワイエ、  
ジョセフ・コットン ほか

シリアスな人間ドラマからミュージカル、コメディまで幅広いジャンルで活躍した名匠ジョージ・キューカーのサスペンス演出が冴え渡る心理スリラーの秀作。次々と起こる奇妙な出来事によって精神的に追い詰められていくヒロインを、女優として絶頂期を迎えていたイングリッド・バーグマンが熱演。見事アカデミー主演女優賞を獲得し、ハリウッドを代表するスター女優の地位を確固たるものにした。



と き 2月26日(日) 昼2時~(開場1時)

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

\*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈近現代史講座〉

## 朝鮮植民地支配を考える

—日本の侵略と朝鮮人の主体性—

講 師 加藤 圭木 (一橋大学)

朝鮮の支配権をめぐる戦争であった日清戦争や日露戦争では、朝鮮を舞台におこなわれた戦いがありました。今回は、日清・日露戦争での植民地化の過程における暴力の問題を取り上げます。また、そうした侵略に抗する朝鮮人側の主体性を地域社会史の視点から考えます。

講師の加藤さんは、「戦争責任」の枠組みで捉えられがちな日韓の歴史問題に対し、19世紀からの植民地支配の実態を明らかにする必要があるという視点で研究をされている若手の歴史学者です。東アジア地域をめぐる問題を、身近な問題として捉えるきっかけにしましょう。

〈加藤さんの著書〉

『植民地期朝鮮の地域変容』(吉川弘文館)ほか

と き 2月16日、2月23日(全2回)

いずれも木曜日、夜7時~9時

ところ 公民館 3階講座室

定 員 30名(申込先着順)

申込先 2月7日(火)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141

〈多文化共生事業〉

## 難民問題を考える

講 師 小尾 尚子

(国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)  
駐日事務所副代表)

日々のニュースで、武力紛争や人権侵害などにより多くの人が住み慣れた自分の国を出て、他国で難民として生活していかなければならないことが取り上げられています。これは外国だけで起っていることではありません。日本においても保護された難民が生活しています。

ケニア、フィリピン、タイなどのUNHCR(地域)事務所やスイス・ジュネーブ本部等で活躍されてきた小尾さんに、世界の難民問題や、日本における難民を取り巻く現状や生活、地域との関係等についてお話いただきます。

なかなか身近に感じる事のない難民問題について知り、私たちも地域として何ができるのか一緒に考えていきます。

と き 2月18日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

定 員 30名(申込先着順)

申込先 2月7日(火)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141

## 女性のキャリアにおける「出産」

講師 杉浦 浩美 (埼玉学園大学)

「ワーク・ライフ・バランス」の実現を目指し、育児制度や介護休暇を整備する企業も増えてきました。しかし、長時間労働の実態が明らかになるなど、厳しい状況が続いています。

この講座では、近年大きな社会的関心を集めている「マタニティ・ハラスメント」を取り上げながら、「妊娠期の働き方」について考えます。妊娠や出産を機に仕事を辞める女性は未だに多く、また、仕事を続けていたとしても、職場の無理解に苦しむ女性も少なくありません。2017年1月からは、マタニティ・ハラスメントの防止措置が義務化されましたが、妊娠期の働き方やそこに生じる困難については、職場や社会の理解がまだまだ不十分です。働きながら子どもを産んで育てることがあたりまえにできる社会を実現するために何が必要か、一緒に考える機会にします。

とき 3月3日(金)夜7時～9時  
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(申込先着順)  
申込先 2月7日(火)朝9時～  
公民館☎(572)5141

〈憲法講座〉

## 映画から学ぶ憲法

講師 志田 陽子 (武蔵野美術大学、憲法学)

今、憲法について知りたい、学び直したいという方が増えています。私たちは中学生の頃から憲法を学びますが、憲法という分野が意外にとらえにくい世界でよくわからないと感じる方も多いのではないのでしょうか。それは憲法が抽象度の高い言葉で書かれているため、条文を読むだけでは生きた意味をつかみにくいことなどが挙げられます。憲法はもともと、現実の歴史から生み出されてきた叡智で、とてもリアルな問題を扱った身近な文書で、短い言葉の中にさまざまな物語が凝縮されています。

この講座では、映画を題材にして、憲法に込められたメッセージを思い描き、読み解くことを目指します。「映画をみて憲法の知識に血が通い始める」そんなお話を聞いて憲法を考えてみませんか。

- 第1回 3月11日 映画にみる共存社会への道  
『遠い夜明け』『イン・マイ・ライフ』『ガンジー』
- 第2回 3月25日 映画にみる医療と人権  
『レナードの朝』『フィラデルフィア』『もののけ姫』『砂の器』

時間 昼2時～4時(いずれも土曜日)  
ところ 公民館 3階講座室  
定員 30名(両日参加できる方を優先します)  
申込先 2月10日(金)朝9時～  
公民館☎(572)5141

## 介護を担う子どもたち ～ヤングケアラーの実態～

講師 澁谷 智子 (成蹊大学)

日本では未成年の子どもが家族の介護や看護を担っていることへの意識が十分ではありませんが、海外の状況を考えても、日本でもそうした子どもや若者が数万人規模でいると考えられています。年齢の割に重すぎるケア責任を負っている子どもや若者は、同年代に相談できず、進学や就職に大きな影響を受けることも少なくありません。「介護離職」「ダブルケア」といった大人を対象とした介護の社会問題は、子どもや若者の間にも起きているのです。

今回はそうしたヤングケアラーの研究をされている澁谷さんにお話をうかがい、その課題から私たちができることを考えたいと思います。

とき 3月5日(日)昼2時～4時  
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(申込先着順)  
申込先 2月7日(火)朝9時～  
公民館☎(572)5141

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

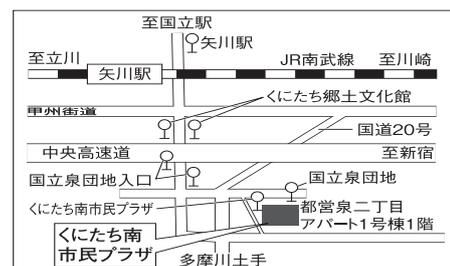
## ♪ 見つけて、感じて、♪ ♪ みんなで楽しむ音楽づくり ♪

身近な素材を使った音楽創作活動を行います。皆さんが日常的に触れているモノを使って、少しレベルの高い創作活動を親子一緒に楽しみましょう！最後はチームに分かれて演奏をします。どんな演奏になるのでしょうか。

講師 小田 直弥  
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 3月12日(日)朝10時～12時  
ところ 南プラザ 多目的ホール  
持ち物 汚れてもよい服装、タオル  
空の1.5リットルペットボトル、飲み物  
対象・定員 子ども(5歳以上～小学生)と保護者  
15組(先着順)  
申込先 2月9日(木)朝9時～  
公民館☎(572)5141

### ■南市民プラザへのアクセス



※JR南武線矢川駅より徒歩15分  
※立川バス:「国立泉団地」バス停下車1分

子ども・若者を支える地域の「つながり」づくり

— 公民館とNHK学園高等学校の協働の取り組み —

寺澤 真理子 (NHK学園高等学校・統括教諭)

NHK学園高等学校の特色

NHK学園高等学校は、働きな

がら学ぶための全国広域通信制高

等学校として国立市富士見台に1

963年に開校しました。以降、

「いつでもどこでもだれでも学べ

る」学校として学習形態を進化さ

せ、近年では、なかなか学校にな

じめない生徒に特化した「Doc

コース」の開設(2004年)、

学校生活を楽しまたい生徒のため

の「登校コース」の開設(201

5年)など、さまざまな背景のあ

る生徒一人ひとりに合わせ「学びたいにこたえる」ことを目指し、教育を展開しています。

2012年には、創立50周年を

機に、これまで以上に地域に根ざ

し開かれた学校として「地域の皆

様の学びたい」にこたえるべく様

々なテーマで公開講座を開始。こ

れまで多くの方にご参加いただき

感謝しております。ご参加いただ

いた皆様の思いや熱意にこたえる

べく、さらに一歩進んで、地域と

の連携に力を入れ、2014年か

ら国立市公民館の皆様とともに子

ども・若者の学びと成長を支えるための活動に取り組んでいます。

若者・保護者・支援者がつながる

具体的には、昨年度まで、不登

校や発達障害などを主なテーマに

取り上げ、保護者の皆様と一緒に

考える講演会やシンポジウムに取

り組んできました。今年度は、若

者や保護者の方の参加に加えて、

地域において子どもの育ちや若者

の自立に関わる課題に取り組んで

いらつしやる、教育、福祉などの

関係機関、地域の皆様がそれぞれ

のつながりをつくり、子ども・若

者や保護者の方のニーズとつなが

っていくことをねらいとして、表

にある取り組みを続けています。

1回目と2回目は、それぞれの

つながりをつくるために、お互い

の取り組みを学びあう「出合いの

ワールドカフェ」を開催し、ファ

シリテーターの長田さんに「つな

がりかた」のヒントを教えていた

だくとともに、今後の「つながり

ワークショップ」への期待などが、

参加者から寄せられました。そこ

では以下の3点を確認することが

できました。

地域の取り組みのEYEは

第一に、今後ゆるやかな「つな

がり」を深め、広げていくために、

この場を継続させていくこと。

第二に、誰もが発言でき、交流

・運営参加が可能になるように全

体共有の時間と小グループでの話

しあいの時間を組み合わせる運営

すること。

第三に、今後半年間、公民館と

NHK学園高等学校が事務局にな

って月に1回程度のペースでそれ

ぞれの活動を学びあえる学習会を

やってみること。

こうした共通認識に基づいて、

3回目と4回目はすでに取り組ま

れている地域の実践と支援者の皆

様の思いをじっくり伺うことがで

きました。すでにさまざまな取り

組みが地域に広がっていることは

認識していたのですが、具体的な

取り組み内容ははじめて知ること

ばかりで、今後はこうした地域の

社会資源を共有していくことが課

題であると感じました。ニーズの

ある子ども・若者を地域で受け入

れ、誰もが公平に地域で育ってい

ける環境をつくるために、今後も

地域の皆様、各関係機関の皆様に

参加を呼び掛けたいと思っていま

す。

まずは「つながり」をつくるこ

とから始めてみませんか？

＜次回(第5回)のご案内＞

国立市公民館・NHK学園高等学校共催

子ども・若者を支える「つながりワークショップ」

子どもの育ち、若者の自立を支援する地域の活動や団体の取り組みについて学びあい、「つながり」をつくる連続ワークショップです。どなたでもお気軽にご参加ください。

二つの取り組みからの事例報告と小グループで地域の社会資源のマップづくりについて話し合います。

①「駄菓子屋くにちゃんの取り組み」

吉村 多恵子 (NPO法人リングリングくにたち)

②「学びの広場 ホットスペース ちえの輪の取り組み」

国立市福祉総務課職員

とき 3月2日(木)夜7時～9時

ところ NHK学園高等学校 2階音楽室  
(富士見台2-36-2)

申込先 公民館 ☎(572) 5141

# ひろば

(8ページにもあります)



## デジタル写楽の会員募集

デジタル写楽は初心者中心のクラブです。良い写真や楽しい写真を撮って楽しく話す会です。現在会員募集中。月二回撮影会、一回合評会実施。会費2千円。

日時 第二、三金曜日昼1時  
場所 公民館、近郊の景勝地  
連絡先 小野寺(573) 1352

## スペイン語会 会員募集

HOLA AMIGOS! 0からスペイン語を習いたいみなさんで、南米ペルーの文化、歴史、料理なども楽しみながら、一緒にスペイン語を話してみませんか。

日時 毎週金曜日朝10時~11時  
場所 公民館  
連絡先 村内(573) 2575

## 国立大正琴サークル 会員募集

大正琴に興味がおありの方、是非ご来館下さい。大正琴は毎回無料でお貸し致します。簡単な曲から始めますので楽しんでいただけます。会費3千円。

日時 第一、三火曜日朝10時  
場所 西福祉館  
連絡先 重松(4003) 2475

## 気功・太極拳 会員募集

心と呼吸と体をひとつにして動かしましょう。自分という小自然の流れを良くし、大自然との交流を楽しみましょう。健康・美・強さは、そこから生まれます。

日時 毎週火、土曜日朝10時  
場所 東福祉館 集会室か大広間  
連絡先 齋田(576) 0316

## 第20回光遊会 写真展示会

私たちの写真サークルは郊外散策、景勝地を楽しみ、各地のイベントで写真撮影を行っています。展示会を行います。ご笑覧いただければ幸いです。

日時 2月7日~12日夕5時  
場所 公民館 1階ロビー  
連絡先 小嶋(576) 3724

## 第23回くいしんぼクラブ

### ジョンさんの韓国料理

キムパ(のり巻き)と大根のスープを作ります。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。

日時 2月18日(土)昼1時  
場所 福祉会館 3階料理講習室  
連絡先 八宮(571) 1007

## 翻訳家・金原瑞人氏講演会

国立で活動中の日本文学の学校クニラボの開校一周年記念イベントです。金原氏の講演会と一橋大学教員とのトークセッション、4月からの開講講座の模擬授業です。

日時 2月18日(土)昼2時開演  
場所 国立商協ビルさくらホール  
連絡先 大河内(5276) 2662

## カンタン手作りみその会

みんなでみそ作りを楽しみます。有機大豆&糶の安心な食材を使用。要申込み2月17日迄。定員8名。スペースF(火金昼2時~4時) 材料費2千500円。連絡は担当まで。

日時 2月19日(日)昼2時  
場所 スペースF(中3~11~6)  
連絡先 藤井(573) 4010

## ハレルヤ合唱講座と団員募集

くにたち市民合唱団が、2月19日(日)夜7時芸小スタジオでのハレルヤコーラス合唱講座と、メサイア演奏会参加者を募集中。初心者歓迎。土曜午後の練習組も有。

日時 3月1日~毎水曜夜6時半  
場所 芸小ホール 音楽練習室他  
連絡先 川上(6602) 7834

## \*「ひろば」欄投稿規定\*

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは掲載希望月の前月7日午後5時です。会員募集は6カ月に一回掲載することができますが、紙面の都合により翌月掲載となる場合がありますので、ご了承ください。

Fax 042(573) 0480

## \*「ひろば」写真募集中\*

国立の風景や行事、自然などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。

## 公民館運営審議会報告

1月10日(火) 第3回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。前回の議事録確認

### 協議事項

委員長より、公民館の職員体制に関する要望書案が出され、内容について検討した。提出先は、市長、教育長を予定。定例会での意見を取りまとめ、委員長が修正。

### 委員研修

前回に続き、副委員長より公民館が教育機関であること、相互教育の重要性について講義があった。

### 報告事項

○公民館だより編集研究委員会 12月号のふれあいひろばは、大

勢の子どもが参加。30期公運審のまとめは、ウェブ掲載や読ませる工夫も欲しい。1月号の、公運審答申に対する識者の評価が分かりやすかった。編集研究委員会のまとめは、対話形式で親しみやすい。

### ○社会教育委員の会

国立市における生涯学習振興・推進計画の課題について、構成に従って答申本文を分担執筆中。論議し全体を共有後、課題に関しての施策を分担して作成する。

### ○東京都公民館連絡協議会

研究大会で委員部会が担当する第4分科会(高齢化社会の対応、公民館の役割などグループ討議)の分担・進行の最終確認。他、市民連携事業等の情報交換。

次回定例会は2月14日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(大井)

〈社会体育事業〉

## 「街を・山を歩く」第4回

日時: 3月8日(水)〈雨天中止〉  
集合: 国立駅北口 朝8時45分  
実施方面: 中野区、豊島区方面(距離: 約11キロ 高低差なし)  
対象: 市内在住、在勤者  
チラシ: 2月15日(水)から市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。  
申込方法: チラシの内容を確認のうえ(日程、コース、申込方法等) 2月16日(木)から28日(火)の期間に下記までお申し込みください。  
申込・問合せ先: 教育委員会 生涯学習課 社会教育・体育担当 ☎(576) 2107 (直通)



# ひろば

(7ページにもあります)



## 原発避難の今をさぐく

二重生活やいじめ等厳しい現状が表面化する中、とみおか子どもネット市村高志氏、母子避難中の鹿目久美氏とトークセッションを行う。参加費2千円。資料軽食付  
日時 2月25日(土)昼2時〜6時  
場所 コミニテイススペース旭通り  
連絡先 狩野080(4351)1353

## リトミック さくらんぼリズム

体験レッスンのご案内です。ピアノの音に触れながら親子でリトミックを始めませんか。対象は平成26年4月2日〜平成28年4月1日生まれのお子様。体験費500円。  
日時 2月28日(火)朝10時  
場所 芸小ホール 音楽練習室  
連絡先 阿部090(6958)2783

## 起立性調節障害ソレイユ茶話会

朝起きられない、体調が悪く遅刻、欠席をする、成長期に多く誤解されやすい病気です。ご家族等の交流です。初めての方もどうぞ。参加費200円。  
日時 2月26日(日)昼1時  
場所 公民館 音楽室  
連絡先 片岡(525)7122

## 硬式テニス春季大会

男単・複A・B・女単・複A・B・男・女壮年複・家族混合・男女小学生単。詳細はHP参照。締切3月2日(木)。申込テニスサンライズ。  
日時 4月1日(土)〜6月18日(日)  
場所 広場コート  
連絡先 竹延(574)7963  
<http://www.kunitachitennis.com/>

## 春季ソフトテニス市民大会

市内在住・在勤・在クラブ・参加費500円(高校生200円)、中学男女3月19日(日)(雨26日)、一般男女・シニア6月4日(日)(雨11日)、申込締切は中学生3月5日(日)、一般男女・シニア5月21日(日)  
場所 広場テニスコート  
連絡先 加藤(572)4728

## 今月の公民館 (2月、3月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 16日(木) 夜〜近現代史講座  
「朝鮮植民地支配を考える  
—日本の侵略と朝鮮人の主体性—」
- 18日(土) 昼 多文化共生事業  
「難民問題を考える」
- 26日(日) 昼\*シネボックス CINEVOX公民館映画会『ガス燈』
- 3月2日(木) 夜 子ども・若者を支える  
“つながりワークショップ”
- 3日(金) 夜 女性のキャリアにおける「出産」
- 5日(日) 昼 介護を担う子どもたち
- 9日(木) 昼\*図書室のつどい  
「ようこそ昔話の世界へ」
- 11日(土) 昼〜憲法講座「映画から学ぶ憲法」
- 12日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう

## 公民館図書室 休室のお知らせ

3月6日(月)から9日(木)まで本の点検・整理のため休室します。  
\*新聞は、朝9時〜夕方5時の間、閲覧できます。  
(3/7〜3/9)

## 〈サークル訪問(305)〉 沙翁塾

「沙翁塾」は、「塾」とはあるが指導者のいない、学び合いの塾である。昨年没後四百年を迎えた英国の劇作家シェイクスピアの作品を味わうサークルだ。一年に一冊、今は『ヘンリー五世』を読んでいる。毎週金曜の朝10時、メンバーが各自で選んだ原文書籍を持ち寄り、毎回百行ほど取り上げる。和気あいあいと進められる活動は、こんな感じだ。まず、テープでネイティブスピーカーの役者の声を聞く。次に台詞ごとに順番に英語で回し読みする。そして均等な行数を日本語に訳していくが、この時、各自の本の訳文や注釈を紹介し合うことで、行間をより深く味わうことができるという。最後に、今度は各自に役を割り当てて再び声に出して読む。最後に同じシーンを演劇ビデオで鑑賞する。こうして一冊を読み終えると、各自お気に入りの台詞を暗記し発表するなどして、一年を締めくくる。

公民館で活動を始めたのは14年前、以来メンバーが入れ替わりながらも沙翁塾を続けてきた。現在のメンバーは女性六人。多感な時期に演劇『ハムレット』やオリーブ・ハッサーが演じた映画『ロミオとジュリエット』に出会ったこと、仕事が一段落し何か始めようと思った時に募集を見て、あるいは誘われて参加し、韻を踏んだ心地よい英文や登場人物の間模様ハマってしまったりなど、沙翁(シェイクスピアの当て字)との出会いは様々だ。

みなさん、一人では続けられないがこうして過ぎる三時間はあっという間で楽しいと、異口同音に言われるのが印象的だった。

この四月からは、『アントニーとクレオパトラ』に取り組み予定。老若男女を問わずメンバー募集中、気軽に見学を、とのこと。

連絡先 川越(573)3695  
〈文・写真 隈井裕之〉



それぞれの役に成りきって

